

授業概要

小学校教員として必要な教科の基礎的な知識や技能を、教材研究を通じて指導する。特に、算数科の教材研究においては、児童が多様に思考しアイデアを生み出す創造性育成教材を説明する。

春期は、国語、社会、算数を中心に、秋期は理科、音楽、図画工作、家庭、体育、生活、外国語、外国語活動を中心に基礎的な事柄、内容、教科の体系的な枠組みを説明する。

授業は演習形式とし、発表、討論を中心に行う。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス	第 16 回	算数科教材の研究⑤（データの活用）
第 2 回	小学校学習指導要領の概要	第 17 回	理科教材の研究①（化学）
第 3 回	国語科教材の研究①（漢字と熟語）	第 18 回	理科教材の研究②（物理、力）
第 4 回	国語科教材の研究②（表現技法）	第 19 回	理科教材の研究③（物理、電流）
第 5 回	国語科教材の研究③（文章の読解）	第 20 回	理科教材の研究④（生物）
第 6 回	国語科教材の研究④（古文の読解）	第 21 回	理科教材の研究⑤（地学）
第 7 回	社会科教材の研究①（古代）	第 22 回	音楽科教材の研究①（低学年）
第 8 回	社会科教材の研究②（中世）	第 23 回	音楽科教材の研究②（高学年）
第 9 回	社会科教材の研究③（近世・現代）	第 24 回	図画工作科教材の研究①（表現）
第 10 回	社会科教材の研究④（日本の人口・産業）	第 25 回	図画工作科教材の研究②（美術史）
第 11 回	社会科教材の研究⑤（世界の産業）	第 26 回	家庭科教材の研究
第 12 回	算数科教材の研究①（数と計算）	第 27 回	体育科教材の研究
第 13 回	算数科教材の研究②（方程式）	第 28 回	生活科教材の研究
第 14 回	算数科教材の研究③（図形）	第 29 回	外国語教材の研究
第 15 回	算数科教材の研究④（測定）	第 30 回	授業研究のまとめ

到達目標

- ①小学校の各教科の枠組み（構造）について説明できる。
- ②小学校の各教科の基礎的な内容・事柄について説明できる。

履修上の注意

- ①発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。
- ②順番に発表を行うので、欠席しないこと。

予習・復習

授業で発表・討論できない学習項目については、自分で学習し理解しておくこと。

評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

テキスト

- ・小学校学習指導要領（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 3 月
- ・小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 7 月
- ・小学校全科の要点整理 ‘21、時事通信社、2019 年 9 月
- ・小学校全科の演習問題 ‘21、時事通信社、2019 年 9 月

授業概要

小学校教員として必要な教科の基礎的な知識を、演習を通じて学びます。実際の授業における子どもの思考の様子も参考にしながら、小学校における学習のための教材について学びます。

春期は、国語、社会、算数を中心に、秋期は理科、音楽、図画工作、家庭、体育、生活、外国語、外国語活動を中心に基礎的な事柄、教科の体系的な枠組みについて学習します。

授業は演習形式とし、発表、討論を中心に行います。

授業計画

第 1 回	授業ガイダンス	第 16 回	算数科教材の研究⑤（データの活用）
第 2 回	小学校学習指導要領の概要	第 17 回	理科教材の研究①（化学）
第 3 回	国語科教材の研究①（漢字と熟語）	第 18 回	理科教材の研究②（物理、力）
第 4 回	国語科教材の研究②（表現技法）	第 19 回	理科教材の研究③（物理、電流）
第 5 回	国語科教材の研究③（文章の読解）	第 20 回	理科教材の研究④（生物）
第 6 回	国語科教材の研究④（古文の読解）	第 21 回	理科教材の研究⑤（地学）
第 7 回	社会科教材の研究①（古代）	第 22 回	音楽科教材の研究①（低学年）
第 8 回	社会科教材の研究②（中世）	第 23 回	音楽科教材の研究②（高学年）
第 9 回	社会科教材の研究③（近世・現代）	第 24 回	図画工作科教材の研究①（表現）
第 10 回	社会科教材の研究④（日本の人口・産業）	第 25 回	図画工作科教材の研究②（美術史）
第 11 回	社会科教材の研究⑤（世界の産業）	第 26 回	家庭科教材の研究
第 12 回	算数科教材の研究①（数と計算）	第 27 回	体育科教材の研究
第 13 回	算数科教材の研究②（方程式）	第 28 回	生活科教材の研究
第 14 回	算数科教材の研究③（図形）	第 29 回	外国語教材の研究
第 15 回	算数科教材の研究④（測定）	第 30 回	授業研究のまとめ

到達目標

- ①小学校の各教科の枠組み（構造）について説明できる。
- ②小学校の各教科の基礎的な内容・ことがらについて説明できる。

履修上の注意

- ①発表・討論を中心に行うので遅刻しないこと。
- ②順番に発表を行うので、欠席しないこと。

予習・復習

- ①授業で発表・討論できない学習項目については、自分で学習し理解しておくこと。

評価方法

発表 40%、学習姿勢 20%、レポート 40%で評価する。

テキスト

- ①小学校学習指導要領（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 3 月
- ②小学校学習指導要領解説 総則編（平成 29 年告示）、文部科学省、平成 29 年 7 月
- ③小学校全科の要点整理 ‘21、時事通信社、2019 年 9 月
- ④小学校全科の演習問題 ‘21、時事通信社、2019 年 9 月

授業概要

3年次以降の専門的な研究をすすめていくうえで必要となる知識や技法を学びます。前期は、各自の関心に基づきながら基本文献をとりあげ、文献の読み解き方、参考文献や関連資料の探し方、レジュメの作成方法、報告のやり方、質疑応答におけるマナーなど、研究に必要な作法や態度を身につけます。

また、映像素材なども活用し、仲間との活発な議論を試みます。後期は、実習開始に向けて、日誌の書き方や文章作法も指導します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション～ゼミの作法	第 16 回	後期のすすめ方
第 2 回	そもそも研究ってなに？	第 17 回	課題レポートの報告 1
第 3 回	そもそも論文ってなに？	第 18 回	課題レポートの報告 2
第 4 回	レジュメの作成と報告態度について	第 19 回	文章を書くということ
第 5 回	テキストを読む 1	第 20 回	文章実践 1
第 6 回	テキストを読む 2	第 21 回	文章実践 2
第 7 回	テキストを読む 3	第 22 回	文章実践 3
第 8 回	映画をみて仲間と議論 1	第 23 回	文章実践 4
第 9 回	映画を見て仲間と議論 2	第 24 回	ドキュメンタリーを見て仲間と議論 1
第 10 回	文献報告に挑戦 1	第 25 回	ドキュメンタリーを見て仲間と議論 2
第 11 回	文献報告に挑戦 2	第 26 回	テーマ報告 1
第 12 回	文献報告に挑戦 3	第 27 回	テーマ報告 2
第 13 回	文献報告に挑戦 4	第 28 回	テーマ報告 3
第 14 回	文献報告に挑戦 5	第 29 回	テーマ報告 4
第 15 回	後期に向けて～課題レポート	第 30 回	まとめ～3年生にむけての課題

到達目標

3年次以降の専門的な学習に必要な知識や態度を身につける。

自分の研究関心のありかを明らかにする。

文章を書く練習をし、レポート作成や実習日誌作成のための力をつける。

履修上の注意

楽しく意欲的に学ぼうという態度を求める。

課題や文章実践に積極的に取り組むことを求める。

仲間と活発に議論する態度を求める。

予習復習

報告者は、文献を読み、レジュメを作成するなど、報告準備をする。

それ以外の参加者は、文献を読んだうえで、質問やコメントを準備してくる。

評価方法

出席がもっとも重要。さらに、ゼミでの報告態度や報告内容、議論への参加態度、課題レポートで、総合的に判断する。

テキスト

初回のゼミで参加者の興味・関心を確認したうえで、相談して決める。

授業概要

心理学（臨床・学校・発達・ポジティブ心理学など）の基礎的文献を用いて、子どもの成長・発達や大人の心理に関する心理学的な視点からの調査について学ぶ。授業では、子どもや教育的問題や対人関係（友人、恋愛）、家族関係などを中心とした社会的課題や興味・関心、疑問を抱いているテーマについて、心理学を基本とした調査研究の方法を指導する。基本的にはグループ研究を行うが、最終的なレポートは個人で作成する。学外での授業見学や行動観察などを行う可能性もあるが、基本的には学内での活動となる。

授業計画

第 1 回	春期ガイダンス	第 16 回	秋期ガイダンス
第 2 回	エンカウンターグループ	第 17 回	夏休み中の調査発表
第 3 回	現代社会における課題・問題	第 18 回	グループワーク
第 4 回	自分の興味・関心あるテーマの探求	第 19 回	個人研究テーマ設定の方法
第 5 回	心理学と心理学的研究方法について	第 20 回	データ分析の方法：記述統計
第 6 回	研究テーマ設定方法（心理学的視点）	第 21 回	データ分析の方法：推測統計
第 7 回	小論文（個人レポート）の書き方	第 22 回	個人研究テーマの設定①
第 8 回	グループでの研究テーマ探索	第 23 回	個人研究テーマの設定②
第 9 回	研究方法の決定と発表	第 24 回	研究テーマの決定と発表
第 10 回	グループ研究①：調査実施準備	第 25 回	個人研究①：調査実施準備
第 11 回	グループ研究②：調査実施	第 26 回	個人研究②：調査実施
第 12 回	グループ研究③：データの分析	第 27 回	個人研究③：データの分析
第 13 回	グループ研究④：発表準備	第 28 回	個人研究④：発表準備
第 14 回	グループ研究発表	第 29 回	個人研究発表
第 15 回	前期振り返り	第 30 回	後期振り返り

到達目標

- ・心理学的視点による課題設定や検討・考察の方法について体験的に習得する。
- ・基本的な文章作成、ならびに心理学的調査・研究の方法について習得する。
- ・ディスカッションやワークを通じて自分の意見を論理的に説明するスキルを習得する。

履修上の注意

議論への積極的な参加、グループ作業において他の参加者との協力、円滑な活動をしようとする姿勢を求める。遅刻は 3 回で、1 回欠席とみなす。

予習復習

研究発表や調査が中心の授業のため、授業内での学習だけでなく、自主学習が必要となる。

評価方法

出席状況（30％）、授業態度・課題や授業への積極性（20％）、研究発表や提出物（50％）、以上の内容から総合的に判断。

テキスト

授業内に指示する。

授業概要

生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するためには、学齢期から継続して体育・スポーツの楽しさを体験していくことが重要である。この授業では現代社会と身体運動の関係、運動が心身に及ぼす効果、スポーツを深く学ぶ中で得られる協力や協働などの態度、スポーツの安全管理と危機管理などの基礎を学ぶ。

また、小学校における体育授業のあり方や指導計画の立て方、学習指導のあり方などを、主体的、対話的活動の中から探求する。なお、実地的経験のため、年間数回の学外調査を行うことがある。

授業計画

第 1 回	授業を始めるにあたって	第 16 回	夏休みの課題発表①
第 2 回	現代社会における健康・運動の課題	第 17 回	学校安全に関する意見交換
第 3 回	学校安全とはどのようなものか	第 18 回	体育活動中の事故防止について
第 4 回	体育活動中の安全管理とは	第 19 回	学校とリスク・マネージメント
第 5 回	学校における体育活動中の事故	第 20 回	学校とクラッシュ・マネージメント
第 6 回	調査まとめ・意見交換	第 21 回	学校とアンガー・マネージメント
第 7 回	学習指導要領改訂の経緯と基本方針	第 22 回	学校とコンフリクト・マネージメント
第 8 回	新しい学力観と授業のあり方	第 23 回	調査のまとめ・意見交換
第 9 回	新しい学力観と評価規準	第 24 回	グループ作業①
第 10 回	単元構造図・形成的評価など。	第 25 回	グループ作業②
第 11 回	調査のまとめ・意見交換	第 26 回	グループ作業③
第 12 回	体育科の教材研究①	第 27 回	報告書の作成①
第 13 回	体育科の教材研究②	第 28 回	報告書の作成②
第 14 回	体育科の教材研究③	第 29 回	グループ発表①
第 15 回	前期のまとめ・意見交換	第 30 回	グループ発表②
		第 31 回	授業のまとめと今後の課題

到達目標

- ① 社会的な問題の中から健康・体力・運動・スポーツの課題を導き出せるようになる。
- ② 学校における体育授業のあり方について把握し、報告書の作成ができるようになる。
- ③ 学校における安全管理・危機管理のあり方が把握できるようになる。

履修上の注意

グループでの作業や発表会・意見交換などが多いので、自ら考え自ら学ぶ姿勢と表現力を養うこと。

予習・復習

授業で出された課題は必ず行うこと。

評価方法

主体的、対話的に授業に取り組む姿勢、調査や発表に関する知識及び技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性等を総合的に評価する。

テキスト

- ・教科書名：小学校学習指導要領解説体育編（平成 29 年告示）
- ・著 者 名：文部科学省
- ・出版社名：
- ・出 版 年（ISBN）：

授業概要

日本と世界の童話や昔話などから代表的な物語について指導するとともに、研究発表のやり方についても指導します。一人一人が自分の興味に従って童話や昔話を選び、作品について及び教育・保育上の意義・取り上げ方などについて、調査・考察を重ねて研究発表を行います。また、聞き手も、発表内容について意見・感想・疑問点等を述べ、意見交換や討論を行います。この発表や意見に対して、指導を行います。卒業論文を書くことにつながるように、発表内容をレポート化することや隣接分野の書籍を読むことも指導します。また、図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	世界の昔話研究「大きなカブ」
第 2 回	日本の昔話概説	第 17 回	世界の昔話研究「ジャックと豆の木」
第 3 回	日本の昔話研究「桃太郎」	第 18 回	世界の昔話研究 ペロー
第 4 回	日本の昔話研究「浦島太郎」	第 19 回	世界の昔話研究 グリム
第 5 回	日本の昔話研究「花咲か爺さん」	第 20 回	世界の童話概説
第 6 回	日本の昔話研究「猿蟹合戦」	第 21 回	世界の童話研究 イソップ
第 7 回	日本の昔話研究「かちかち山」	第 22 回	世界の童話研究 アンデルセン
第 8 回	日本の童話概説	第 23 回	世界の童話研究 ルイス・キャロル
第 9 回	日本の童話研究 小川未明	第 24 回	世界の童話研究 C・S・ルイス
第 10 回	日本の童話研究 浜田廣介	第 25 回	世界の童話研究 ローリング
第 11 回	日本の童話研究 宮沢賢治	第 26 回	施設見学 1（国際子ども図書館等）
第 12 回	日本の童話研究 新美南吉	第 27 回	施設見学 2（相田みつを美術館等）
第 13 回	日本の童話研究 松谷みよ子	第 28 回	施設見学 3（ちひろ美術館等）
第 14 回	世界の昔話概説	第 29 回	施設見学 4（東京子ども図書館）
第 15 回	世界の昔話研究 「三匹の子豚」	第 30 回	施設見学 5（アンデルセン公園）
		第 31 回	施設見学 6（三鷹の森ジブリ美術館）

到達目標

日本と世界の代表的な童話・昔話について知り、童話・昔話等の物語を学ぶための基礎的な知識を養うことが目標です。また、研究調査及び研究発表の方法を身につけ研究発表ができるようになり、同時に他の発表者から学ぶ姿勢も身につけます。

履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、毎回、交互に研究発表を行い、その内容を評価します。聞き手は、発表についての意見・感想・疑問等を述べ、それも評価に加えます。また、施設見学レポート等、提出物も評価に含めます。多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不十分ですので、事前の自主学習が必要となります。また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）
研究発表 40% レポート 40% 受講態度 20%

テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

授業概要

この演習では、主として小学校教員を志望する学生を対象に、教育法規に関する学習を進めることにする。日本は法治国家である以上、教育の世界においても法規は大変重要であり、それゆえに教員採用試験でも最頻出領域である。

2年次の最初では、現行教育法規について十分に学習する機会を得ていない（「教育法規」を履修しないとまとまった機会が得られない）ことを考慮し、春期は現行の教育法規について、広く浅く理解していくことを主たる目的とする。秋期は春期に培った基礎知識をふまえて、より深く理解するために、主要判例（法規の内容が問題になる瞬間）や審議会答申（法改正の契機となるもの）にも視野を広げていきたい。

授業計画

第 1 回	ゼミ（春期）の進め方について	第 16 回	ゼミ（秋期）の進め方について
第 2 回	教育基本法（1）	第 17 回	教育基本法をめぐる問題（1）
第 3 回	教育基本法（2）	第 18 回	教育基本法をめぐる問題（2）
第 4 回	学校の種類と目的に関する規定	第 19 回	教育基本法をめぐる問題（3）
第 5 回	就学に関する規定	第 20 回	学校種の増加と単線型学校系統
第 6 回	教育内容・教育課程に関する規定	第 21 回	教育課程をめぐる問題（1）
第 7 回	教科書・教材に関する規定	第 22 回	教育課程をめぐる問題（2）
第 8 回	懲戒・体罰に関する規定	第 23 回	体罰をめぐる問題
第 9 回	いじめ・不登校に関する規定	第 24 回	いじめをめぐる問題
第 10 回	児童虐待・人権に関する規定	第 25 回	不登校と教育機会の確保
第 11 回	障害を持つ子どもに関する規定（1）	第 26 回	保護者の懲戒権と虐待
第 12 回	障害を持つ子どもに関する規定（2）	第 27 回	人権教育をめぐる問題
第 13 回	教職員に関する規定	第 28 回	特殊教育と特別支援教育
第 14 回	学校運営に関する規定	第 29 回	教職員をめぐる問題
第 15 回	地方教育行政の組織及び運営に関する法律	第 30 回	新自由主義と教育行政の変化

到達目標

- ・教育法規に関して基本的な知識を得る。
- ・現行教育法規が持っているさまざまな問題点（だから法規は改正される）を理解する。

履修上の注意

- ・法規の文章は、正確さを求めるがために、恐ろしく回りくどい表現が用いられるので、粘り強く格闘すること。
- ・下記に示すテキストは、はじめの一步を踏み出すためのものであり、状況に応じて追加の教材を指定する可能性がある（こちらで準備して配布する可能性もある）。

予習・復習

- ・テキストや配布資料は、事前に一読してあることを前提とする。すなわち、予習中心型である。
- ・授業後には、習得した知識を使って、教員採用試験問題を解いてみるとよい。知っていさえすればあっさり正解してしまうという、冷静に考えればごく当たり前の事実を体感してほしい。

評価方法

- ・法規の内容の理解度（50%）、輪講における成果（50%）

テキスト

- ・教科書名：教職教養の要点理解（2021 年度版）
- ・著 者 名：時事通信出版局（編）
- ・出版社名：時事通信社
- ・出 版 年：2019 年